

いろいろな子育て支援センターで楽しく遊ぼう!

第6回「子育て支援まつり」



子育て支援センターは、お子さんと一緒に出掛けられ、親子の交流や育児相談ができる場所です。村内にある公立・私立の子育て支援センターでは、11月の第3日曜日の「家族の日」にちなんで、第6回「子育て支援まつり」(スタンプラリー形式)を開催します。

期間中にいろいろな子育て支援センターを利用して楽しく遊び、各センターで配布するシールを集めて、すてきなクリスマスカードを完成させませんか。

期間▼11月1日(水)～30日(木)

時間▼各施設の開放時間内

場所▼村内にある公立・私立の子育て支援センター

対象▼村内在住の就学前のお子さんとその保護者

問い合わせ▼とうかい村松宿こども園
子育て支援センター(☎282-7390)



▲詳細はこちら

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

瑪瑙(めのう)と東海村の縄文人

歴史と未来の交流館学芸員

中泉 雄太

色とりどりの石(鉱物)に出会える河原や海辺。足元を見ながら歩いていると、太陽の光を浴びて、ひととききれいに輝く石を目にします。その石の名は「瑪瑙」。

瑪瑙は石英の小さな結晶が集合してできた玉髓の仲間で、しま模様がある玉髓を瑪瑙と呼んでいます。色は透明なものから鮮やかな赤色を帯びるものなど、その美しい見た目から鑑賞石としての人気も高い宝石です。

実は、この宝石を利用した石器や勾玉などが東海村の遺跡から発見されています。例えば、村内の縄文時代の遺跡からは、矢

の先端に付ける瑪瑙製の石鏃が出土しています。ところが村内には瑪瑙が採れる場所はありません。果たして東海村の縄文人は、どこで瑪瑙を手に入れたのでしょうか。

そこで、東海村の遺跡調査団は、メンバーの菊池芳文博士(東海村文化財保護審議会委員・千葉科学大学)と共に、瑪瑙産地の謎を探るた



【石鏃と瑪瑙原石(御所内貝塚出土)】

めの調査を開始しました。場所は茨城県の瑪瑙産地として有名な常陸太田市・常陸大宮市の山間部、久慈川・玉川の河原、ひたちなか市の海岸です。何日もかけた調査の結果、山・川の瑪瑙と海の瑪瑙の特徴が違うことに気が付きました。山・川の瑪瑙は板状に割れているものが多く、一方で海の瑪瑙の多くは丸味を帯びていました。

また村内では、御所内貝塚や堀米A遺跡から、海の瑪瑙と同じ丸い形状の瑪瑙(原石)が見つかっています。この原石は石材として持ち込まれたものであり、東海村の縄文人が海の瑪瑙を採って利用したことを示す重要な証拠になるかもしれません。

私たちは、今後も石が語る歴史の真相をたどるため、さらに瑪瑙の調査を進めていきます。瑪瑙とこの小さな石鏃には、瑪瑙を求めて旅した縄文人の軌跡が刻まれているはず。と、そこで最近、夢中になって瑪瑙採取に通っているためでしょうか。休日に磯遊びでにぎわう夏の海岸が、まるで自宅の庭のように感じるようになりました。